

8月の電話相談・来室相談から

☆ 就学を控え、障がいを持つ子のお母さんが相談に来室しました。特別支援学級に就学すべきか、養護学校がいいのかと悩んでおられました。家庭では家族皆がかかわりを持って大事に育てている様子が、言葉の端々から感じられます。とっても素晴らしいことだと思いました。そんな話の中でハッとしたことは、様々な相談機関に行くところなことを聞かれるんですと、悔しさをにじませて話されたことです。「ご兄弟はどうですか・・・？」遺伝的なことを心配されての質問であることは重々理解しながら、兄弟も障がいをもっているとすれば当然だとも言わんばかりに受け取れる質問に、悔しくて腹が立つのですが、言い返してやることもできずにいるんです、と。



☆ 言葉の遅れを心配されて相談に見えたお母さんは、相談員の「お母さん、あまり頑張り過ぎないでくださいね。お母さんが一生懸命育てていらっしゃるの分かりますよ。」の言葉がけに、うつむいて涙していました。思い通りにならない子育てに悩み、疲れもたまっているように見えました。母子家庭でしたので、近くに子育て支援をしてくれる人や相談に乗ってくれる人がいればいいなと思いました。一番大変な子育て期でご苦労されていることは想像に難くありません。心から応援したいと思いました。子育てに悩みを抱えておられる親御さんはたくさんいます。

昔も今も子育ては楽しいことばかりでも、また、大変なことばかりでもありません。成長のプロセスを見守り、味わうことで親が親として楽しみ、学べることも多いのではないかと思います。

特別寄稿 「シャイニング」に希望を託して

栗田正人氏

新庄市のシャイニングなどの適応指導教室は、市町村の教育委員会が、長期欠席をしている不登校の小中学生を対象に、学籍のある学校とは別に、市町村の公的な施設のどこかに部屋を用意して、そこで学習の援助をしながら本籍校に復帰できることを目標に運営している教室である。

本校は、シャイニング創設当初から、断続的ではあるが、お世話になり続けている。学校復帰を目的としているが、復帰し仲間とともに卒業式を迎えられる子どももいれば、校長室で卒業していく子どももいる。そんな子どもでも、シャイニングでの指導の甲斐あって、高校に進学し、社会人として活躍している人もいる。高度情報社会の中で育ってきた子どもたちは、多様な個性や感性を持ち、成長のスピードも幅も密度も一律ではない。学校現場では複雑な社会に対応し、目に見える学力だけでなく、社会参加できる生徒の育成に重きがシフトしてきている。

シャイニングにおいても、学校復帰は一つの目標ではあるが、教育を社会参加の力をつけるための方策と考えた時、状況によっては必ずしも復帰というルートではなく、次のステージで折り合いをつけて生きていける力をつけると考えても良いように思う。特に、最近、人間関係に起因する不登校ではない子どもたちが増えている。また、学校では良質の体験が積み上げられず、教科学習に拒否反応を示す子どももあり、シャイニングでもうまく適応できないこともある。その子の実態に応じた対応を学校と連携し模索していくことも必要と考える。



長期目標を社会参加ととらえた時、シャイニングでの学習も教科の学習のみならず、生産体験学習や進路学習、芸術体験学習や生活スキル獲得を目指した学習なども求められているといえる。これまでも、学校でできないこともシャイニングでは取り組み、大きな成果を上げてきた。多様な体験等を含んだ広義の学習の成果であったとも言える。

シャイニングは、学校復帰を目指す一方、将来の社会参加を念頭に、生徒個々の実態に応じた、学校ではなかなかできない広義の学習の充実を図ることで、子どもの意欲も引き出し、学校復帰等何らかの道に踏み出すきっかけを与える存在でこれからもあり続けてほしい。悩める家庭、学校の希望の場として。

「自分を見つめる（？）秋」

夏休み明けに1名、9月に入ってもう1名と、シャイニングクラスの入級生が増えました。いずれも3年生。中学校生活の残りもわずかになってきて、これからの自分を見直していかなければならないと決断しての行動のようです。

これまでもそうでしたが、学習進度が一人ひとり異なっているため、教科によっては個に応じた部分からのスタートが要求されます。できるだけ興味・関心にも配慮しながら学力向上をめざそうと努力しています。しかしながら、3月中旬までとなるとかなり短い期間。通級生以上に焦りを感じながらも平静さを装って励ましています。

今月初めの体験活動では、各校のキャリア教育（職場体験学習）に連動させた内容の学習をしてみました。大人になる（社会で自立する）ということがどういうことなのか、一緒に考えてみました。現段階での“20歳の自分”とういうことにも触れてみました。彼らなりに考えているし、現実的な構想を持っていることも分かりました。（全員とはいきませんでした。）5年後の自分のイメージに近づきそして実現させるために、これからどう歩んでいこうとしているのか、どんな努力が要求されそれをどう乗り越えていくのか・・・。

新しいことに一歩踏み出すエネルギーを蓄えていけるよう支援していこうと思いました。

さて、エダマメやジャガイモの収穫後の畑には今月初め、生徒たちが大根の種まきを終え、いい具合に発芽しています。その隣の畝のサツマイモやサトイモもどんどん成長し、表面には見えない土の中で、イモの部分に栄養を蓄えているものと思います。通級生も表面化はしないかもしれないが、20歳の夢の実現に向けたエネルギーを蓄えられるよう応援していきます。自分を見つめる秋に相応しく・・・。



あ と が き

島根県出身、錦織選手のグランドスラム（全米オープン）での準優勝はテニスファンのみならず、全国の子どもたちの夢を広げました。準々決勝後のインタビューで「誰にも負ける気がしない」という強気という言葉に一瞬「負けたくない」の聞き違いかと思いましたが、その後のジャコビッチ選手（世界ランク1位）との準決勝戦の試合振りで聞き違いでなかったと納得しました。努力に裏打ちされた自信のある言葉でした。新庄市だったら、多くの子どもたちに夢を与えられる人物は誰だろうと考えたとき、その一人は人気漫画化の富樫義博さんではないでしょうか。「富樫アートを世界に発信する会」が設立された記事を先日目にしました。

9月の活動 シャイニングクラス在籍 7名

< シャイニングクラスの学習 >

- 月曜日 数学、国語 ○ 水曜日 社会、英語
- 金曜日 理科、体育 ○ 木曜日 体験活動（月2回）

◆ 体験活動⑨ 9月4日（木）
「キャリア教育（将来の夢を描く）」

◆ 体験活動⑩ 9月18日（木）
「自画像を描く」

◆ 体験活動⑪ 10月9日（木）
「サツマイモ・サトイモの収穫・販売」



自画像を描く（9/18）

教育相談連絡先

- ダイアルなんでも相談
TEL 23-7266
- 適応指導教室（シャイニング）
TEL 22-2111
（内線 445、448）
林、小野、鈴木が担当です。